



図1、診療件数(全身麻酔下処置、立位診察、処置、各種検査、全て含んだ件数)

このコーナーは今までは家畜の診療についての記事が中心でしたが、今回は日高支所家畜高度医療センターについて紹介します。

当センターは現在5人の獣医師と3人の業務職員が勤務し、来院してくる患者の2次診療を行っています。

獣医師は2000年に3人から4人、2018年には5人になり

ました。それに伴い診療件数も増えていきます(図1)。また、2003年に診療棟の増築が行われ診療効率が上がったことも診療件数に対応できている大きな要因です。

最も多い手術は馬の関節鏡手術で、年間250件以上実施しています。次いで大結腸捻転などの開腹手術が年間130〜150件あります。他にも上部気道疾患、骨折、難産整備、去勢、外傷、眼科疾患、当歳馬の肢軸矯正などに対する手術や各種検査を行っています。

牛の診療は、現場で対処できない整形外科症例、開腹手術を要する急性腹症、臍周囲の疾患など年間40〜50件程度あります。



当歳馬の臍ヘルニア整備

平日の午後は獣医師1名が交代で血液検査と細菌検査を行っています。

敷地内にある新ひだか町所有の死亡獣畜焼却場に毎日のように搬入される牛馬の病理解剖も高度医療センター獣医師が行います。外科と解剖は密接な関係がありますので、外科手術を行う私達としてはいい勉強になっています。

当センターは1976年の開所以来、国内では数少ない大動物2次診療施設として確固たる地位を築いてきました。海外に目を向けても診療件数、内容は引けを取りません。

診療以外にも多くの獣医学科学生や獣医師の研修・実習の受け入れや、講演・講義の依頼を受けています。また研究発表や論文執筆も積極的に行っています。



獣医師会講習会

とした空気になることもありませんが、基本的には和気あいあいと?和やかに?日常業務をこなしています。

ほとんど往診をしないので、牧場の方との会話も楽しみのみ一つです。

「ここには来ない方が良いだけだな」とおっしゃる牧場の方も多いのですが、1頭1頭の患者に真摯に向き合う獣医師と、ミスのないよう細心の注意を払って仕事をやる業務職員がスクラムを組むOne teamで対応しますので、急患や外科症例、詳細な検査を要する難治性疾患などありましたら是非ご相談下さい。

(獣医師・佐藤正人)